

ボランティア 兵庫

2010年 2月号

CONTENTS

- | | |
|--|-----|
| 阪神・淡路大震災15周年記念事業 ひょうごボランティアのつどい | 2・3 |
| つれづれエッセイ「お年寄り日本と元気な若者の国」… 4 市民活動災害共済のご案内 | 6 |

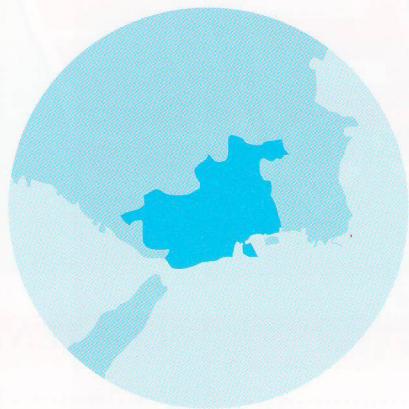


(写真：佐用町)

「台風9号豪雨災害」平成21年8月の台風9号豪雨災害の写真です。佐用町・宍粟市・朝来市に災害ボランティアセンターが設置され、地域特性に基づいた救援・復旧支援活動が行われました。



兵庫県 ボランティア協会



阪神・淡路大震災15周年記念事業 ひょうごボランティアのつどい

テーマ ~「ボランティア元年」から15年を経て~



兵庫県国際交流協会 理事長
齋藤 富雄氏

当日の開催内容は、表1のとおりで、当協会小西会長の開会の挨拶の集中豪雨等を振り返り、今後のボランティア活動や、被災者支援のあり方について学び合い、そして伝え合うという趣旨で開催されました。

開催にあたりましては、ひょうご安全の日推進県民会議が実施する、「阪神・淡路大震災15周年記念事業補助制度」を活用して開催いたしました。

続いて、実践報告では、佐用町社会福祉協議会事務局の方から、平成21年8月に起こりました、集中豪雨における災害で、佐用町のボランティアセンターでの活動内容を、写真とともにご講演頂き、現場での苦労した点や課題などを出して頂きました。

次に、当協会馬場正一理事を聞き手とし、佐用町社会福祉協議会会長 濱田義弘氏 副会長 大浦

ア元年」から15年を経て」をテーマとし、全国各地で自然災害が発生し、大きな被害が出ている中で、阪神・淡路大震災や昨年の佐用町の集中豪雨等を振り返り、今後のボランティア活動や、被災者支援のあり方について学び合い、そして伝え合うという趣旨で開催されました。

阪神・淡路大震災15周年記念事業の一環として、「ひょうごボランティアのつどい」が、平成22年1月19日(火)、神戸市中央区のラッセホールで県内各地から150名余が参加して開催されました。このつどいは、「「ボランティア元年」から15年を経て」をテーマとし、全国各地で自然災害が発生し、大きな被害が出ている中で、

阪神・淡路大震災や昨年の佐用町の集中豪雨等を振り返り、今後のボランティア活動や、被災者支援のあり方について学び合い、そして伝え合うという趣旨で開催されました。

兵庫県防災監の木村光利様よりご挨拶を頂きました。

引き続き、基調講演では、財団法人 兵庫県国際交流協会 理事長 齋藤富雄氏(前兵庫県副知事)から、阪神・淡路大震災や鳥インフルエンザなど防災監當時の苦労話を通じて、危機管理の現場で学んだことやこれからボランティアに必要な事についてご講演頂きました。



佐用町社会福祉協議会の方々の報告

美佐子氏 内山宗一氏 大下東一氏から、佐用町災害ボランティアセンターの運営について、災害発生当時からのボランティアセンター運営についてを、運営を担う立場から話して頂きました。

全体を通じて、心の伴ったボランティア活動の大切さ、また、被災者支援の難しさを学ぶことができ、そして、ボランティア活動の今後の方向性について学ぶことができた貴重な時間となりました。

これからも兵庫県ボランティア協会では、今日的なボランティア活動の重要性を確認し、より多くの人たちがボランティア活動に取り組めるよう、多彩な主体・地域・分野との連携・協働を進め、皆様のボランティア活動の中間支援組織としてより一層活動に励むことを強く認識した一日でありました。

阪神・淡路大震災15周年記念事業
ひょうごボランティアのつどい
テーマ ~「ボランティア元年」から15年を経て~

趣 旨

阪神・淡路大震災から15周年が経過する中で、全国各地で地震・水害・噴火などの自然災害が発生し、大きな被害が発生しています。

阪神・淡路大震災では、甚大な被害の一方で、全国から多くのボランティアが被災地に駆け付けたことから、平成7年は「ボランティア元年」と呼ばれ、特定非営利活動促進法などのボランタリー活動の基盤整備が図られた年でもありました。

折しも、平成21年8月の台風9号豪雨災害では、佐用町・宍粟市・朝来市に災害ボランティアセンター設置され、地域特性に基づいた救援・復旧支援活動が行われました。

このボランティアのつどいでは、阪神・淡路大震災と今回の豪雨災害における佐用町での災害ボランティアセンターの取り組みを振り返り、今後のボランティア活動や被災者支援のあり方について学び合い、伝え合いたいと思います。

※ この事業は、ひょうご安全の日推進県民会議が実施する「阪神・淡路大震災15周年記念事業助成制度」を活用して実施します。

主 催 兵庫県ボランティア協会

共 催 ひょうごボランタリープラザ

後 援 神戸新聞厚生事業団

時間	内容
13:30 ～13:45	開会 あいさつ・オリエンテーション・オープニングイベント
13:45 ～14:50	基調講演 「危機管理の現場から学んだこと」 講師：財団法人 兵庫県国際交流協会 理事長 斎藤 富雄氏（前兵庫県 副知事）
14:50	休憩
15:00 ～16:30	実践報告 「佐用町災害ボランティアセンターの3週間」 報告①「写真で見る 佐用町災害ボランティアセンター」 講師：佐用町社会福祉協議会 事務局 報告②「佐用町災害ボランティアセンターの運営」 ～センター運営を中心的に担った方々の想いを中心に～ 報告者：佐用町社会福祉協議会 会長 濱田 義弘氏 副会長 大浦美佐子氏 副会長 内山 宗一氏 副会長 大下 東一氏 聞き手：兵庫県ボランティア協会 理事 馬場正一 (兵庫県社協地域福祉部長)
16:30	閉会

つれづれエッセイ 『お年寄り日本と元気な若者の国』

街を見回しても、日本は若者が少なく、4、50代以上の人人が目立ちます。地方はなおさらで、田舎町はお年寄りばかり。商店街には人がいません。

それもそのはず。日本人の年齢の中央値（人口を年齢順に並べて真ん中の人の年齢）は、今や40歳代半ば。世界を見回しても、日本より高齢の国はほとんどありません。しかも、毎年、さらに高齢化している現実。

一方、発展著しい東南アジアや南米では、年齢の中央値は20歳代半ばの国が多いそうです。アフリカなどの開発途上国では、なんと17歳、18歳の国もあるとか。日本とは、親子ほども歳が違いますね。

とは言え、皆さん、日本は人口1億3000万人弱、世界有数の大団だと思っておられるかも知れません。新興のメキシコやフィリピンも、人口は1億人前後で、今のところ、まだ日本より少ないそうです。

でも、お年寄りの1億人と、若者の1億人では、活力が全然違います。今や日本は、65歳以上の非生産年齢の方が全体の約2割。60歳以上は3割弱とのこと。今後、高齢者の割合はさらに増えるでしょう。

では、解決策は？ 難しいですね。出生率は上がると良いですが、高齢者の増加に、とても追いつかないかも。外国から、若くて優秀な移民に来てもらう方法もありますが、日本に魅力がなければ、優秀な移民も来てくれないでしょう。日本の皆さん、定年後も、当面、楽隱居はできそうにありません。支えてくれる若者がいないんですから。

昔から、「親孝行、したいときには、親はなし」と言いますが、今や、親には、その親も、またその親もいて、「親孝行、しようと思っても、なかなか順番が回って来ない」と、言い訳が聞こえてきそうです。



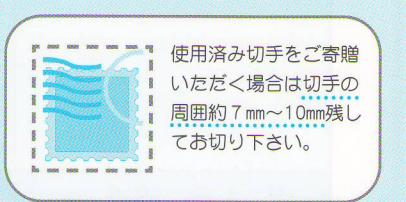
橋本総合法律事務所
弁護士 橋本真爾

おうちで、「書き損じはがき」と「宝くじのはずれ券」が眠っていませんか？ バザー用品提供のお願い

兵庫県ボランティア協会では、「書き損じはがき・未投函の往復はがきの半片」や「宝くじのはずれ券」をご寄贈いただき、ボランティア活動推進の資金に活用する運動を展開しております。

また定期的にバザーを開催しております。用品の提供も合わせて皆さまのご協力をお願いいたします。

- お願い● 年賀はがき・官製はがき・往復はがきなどは、消印のないものに限ります。



【送り先】兵庫県ボランティア協会

〒650-0044 神戸市中央区東川崎町1-1-3 神戸クリスタルタワー6F
ひょうごボランティアプラザ内 TEL / FAX (078) 360-8191

● 財政支援会員（個人・団体）

飯山 知子 伊東 恒子 伊藤 チ工
 多田 武夫 大原 義雄 岡田 卓也
 香川 浩子 神薗 正弘 久保 洋子
 小塙かつ江 杉浦 規子 杉本 幸子
 杉山 嘉夫 橋 克彦 辻 寛
 出射 士郎 名代 敬一 藤原 元一
 藤原 久嗣 前川 博子 松下 貞夫
 宮田 雅人 菱川 文博 黒田 史子
 平瀬 謙治
 芦屋市ボランティア連絡会
 三田ボランティア連絡会
 J-オイルミルズ
 社会福祉法人 あゆみ会
 特養老人ホーム やすらぎ園



特養老人ホーム けやきホール
 篠山市社会福祉協議会 (篠山Vティア連絡会)
 介護老人保健施設 風と緑
 明石市矯風会

● 古切手

本岡 猛 豊澤 良行 山田 一休

協力者ご芳名（順不同・敬称略）
 平成21年7月23日～平成22年1月30日

狩俣 健 竹田 螢

兵庫県神戸県民局総務室 総務防災課

兵庫県健康福祉部生活消費局生活衛生課

兵庫県教育委員会事務局財務課

(株)ユニペック

株式会社 ボンド商会

● 新切手

原田 芳子

● 宝くじはずれ券

狩俣 健

● ベルマーク

狩俣 健

使用済カードの収集は終了いたしました。
 ご協力ありがとうございました。

1995.1.17 5:46 阪神・淡路大震災10周年記念事業
 復興イベント・インターネット・ブロードバンドTV
<http://www.hyogo117tv.jp>

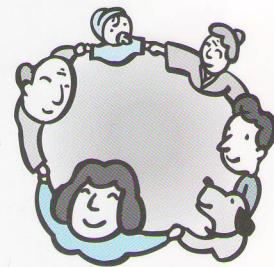
イベント内容等上記アドレスにて公開中

平成22年度 財政支援会費の御願い

ボランティア活動推進にご支援賜る、平成22年度財政支援会費に関しまして、
 本年度も引き続きよろしくご支援の程お願い申しあげます。

会費は個人会員1口2,000円から、団体会員1口5,000円からで何口でも結構です。
 なお、ゆうちょ銀行以外では下記の銀行口座（普通）への振込もできます。

但馬銀行 上筒井支店
 店番：339
 口座番号：0464818
 名義人：兵庫県ボランティア協会 会長 小西康生



ボランティア募集！

兵庫県ボランティア協会では、より充実したボランティア活動を推進するために、事務局
 ボランティア・事業ボランティアを隨時募集しています。詳細は下記までお問合せください。

兵庫県ボランティア協会
 ボランティア兵庫編集委員会

〒650-0044
 神戸市中央区東川崎町1-1-3 神戸クリスタルタワー6F
 ひょうごボランタリープラザ気付
 TEL 078-360-8191

兵庫県ボランティア・市民活動災害共済のご案内

この共済は、ボランティア活動中、ボランティア自身がケガをした（傷害事故）、他人にケガをさせてしまった、他人の物を壊してしまった（賠償事故）などの事故に備えていただくものです。

	保険金支払金額	保険金をお支払いする場合	具体的な例
①傷害保険金 本人の事故	死亡 2,774千円	活動中のケガのため、事故の日から180日以内に死亡された場合	○ボランティア活動に向かう途中、車にはねられ死亡した場合
	後遺障害 2,774千円 (限度額)	活動中のケガのため、事故の日から180日以内に後遺障害が生じた場合	○外出介助中、誤って階段から転落し、半身不随の障害を負った場合
	医療 通院1日 6,000円 入院1日 10,000円 手術 400千円 (限度額)	活動中のケガのため、通院または入院して医師の治療を受けた場合 ※手術の種類に応じてそれぞれ定められた倍率（10倍、20倍、40倍）×入院保険金日額をお支払いします。	○給食サービス活動中、溝に落ち足を骨折した場合
②賠償責任保険金 対人・対物事故	対人・対物共通 5億円 (限度額)	第三者の身体に損害を与える法律上の賠償責任を負った場合	○外出介助中、誤って車いすを転倒させ、利用者を負傷させてしまった場合
	免責金額 なし	第三者の財物に損害を与える法律上の賠償責任を負った場合	○友愛訪問活動中、訪問先の花瓶を誤って割ってしまった場合
③見舞金	死亡見舞金 給付金額 100千円	活動中、ボランティア自身が死亡し、傷害保険金の支払対象とならない場合	○ボランティアの研修参加中、気が悪くなり病院に運ばれたが、心不全で翌日亡くなられた場合

●掛金 1名につき500円（年度内であれば、いつご加入いただいても500円です。）

※掛金の内、480円は三井住友海上火災保険株式会社の「ボランティア活動保険」（傷害担保条項・賠償責任担保条項）の保険料に充当しています。死亡見舞金は、兵庫県社会福祉協議会が独自に運営しています。

●補償期間 毎年4月1日0時から翌年3月31日24時までです。

4月1日以降の加入は、受付窓口の市区町社会福祉協議会が受け付けた翌日から補償されます。

●加入対象者

- ①社協に登録された、団体に所属するボランティアおよび個人ボランティア。
- ②社協に登録された「ボランティア活動を推進している機関・団体」の役員および役員に準ずる方。

●加入方法・事故対応

- ①所定の用紙にご記入のうえ、加入者名簿および掛金を添えて、最寄りの市区町社会福祉協議会ボランティアセンターにご提出ください。
- ②事故が起きた場合には、ただちに、加入手続きをした市区町社会福祉協議会に連絡し、事故の日から30日以内に「事故届出および証明書」を提出してください。

★この機関紙は、ひょうごボランタリー基金の助成を受けて発行しています。★